

# 人生を変えた広報紙

広報みよしがきっかけで、人生が変わった——。特集記事と一枚の写真で生まれた、つながり。福祉喫茶ハーモニーのお話です。



広報みよしがきっかけで福祉喫茶ハーモニーで働くことになった菊池俊樹さん。笑顔が印象的。



## 広報みよしが、人生を変えた。

この写真の輪の中に、我が子の姿を夢見た——。三芳町役場に隣接する文化会館コピスみよし館内にある福祉喫茶ハーモニー。色とりどりのエプロンをまとった、障がい者と職員がともに働いています。広報みよし平成28年3月号で障害者差別解消法について特集し、ハーモニーで働く皆さんのことを紹介しました。広報発行後の反響が大きかった、と店長の相澤美穂さんは言います。「以前利用されていた人たちが『最近来てなかったけど、広報を読んで思い出したから、また来たよ』と改めて常連になったり、『広報に載ってたね!』

と声をかけられたり。嬉しいですよね」と笑顔で話す相澤さんは生まれも育ちも三芳町。町の情報はインターネットを見なくても、広報みよしに集約されていると言います。「例えばごぶしの里のホタル。町内で観れることを知りませんでした。それだけではなく、地元の人たちの活動で私たちは観賞できることを知り、その背景や町の人たちを知ることができ



(写真上・下左) 菊池さんがハーモニーで働ききっかけとなった広報みよし平成28年3月号の紙面で掲載した写真と紙面。この写真がきっかけとなり、一人の人生が大きく変わりました。(下右) ハーモニー店長の相澤美穂さん。

ます。地域に密着した内容が多いことが魅力で、自慢の広報紙です」と話す相澤さん。「広報の特集がきっかけで、人生が変わった人がいるんですよ」と言う相澤さんのそばに、笑顔でレジを打つ男性の姿が。菊池俊樹さんです。「広報みよしに掲載された写真を見て、彼の両親が『私の目に、この輪の中に、うちの子がいる姿が映ったんです』と言って、本当にスタッフとして菊池くんが働くことになったんです」と嬉しそうに話す相澤さん。「知的障がいがあるために、それまで規則のある単純作業しかできないと、ご両親は思っていたそうです。しかし、ハーモ



菊池さんは写真を撮ることが大好き。出来上がったお弁当を撮影し、店内のメニューなどに使われています。

ニーでは注文を受けたり、レジ打ちをしっかりとこなしていて、目を丸くしているんですよ」。広報みよしで夢を見た——。ハーモニーの扉が開くと同時に「いらっしやいませ」とお客様を誘導する菊池さんの笑顔は、ハーモニーの彩りに欠かせないものとなりました。

### 住人十色 共に生きる



平成28年4月に施行された障害者差別解消法について特集。福祉喫茶ハーモニーや農福連携、合理的配慮などを三芳町に関わる人、コトから考えた内容。町のWEBサイトからご覧いただけます。



平成28年3月号

### 「広報の人ですよね」

認知症をテーマに特集をした平成26年6月号の広報みよし。その企画が生まれたきっかけは、一人の住民の「声」でした。「夫が患っている認知症のことを、多くの人に知って欲しいと思っていました。3年前のある日、役場でエレベーターに乗ろうとしたとき、たまたま広報の人がいたんです。広報の人ですよね、と声をかけ『認知症Cafe』のことを話したところ、後日電話がかかってきて、取材を受けることになりました」と話す熊谷くるみさん。

発行当時、周囲の人から「広報読んだよ!」とたくさん声をかけ

られ「広報みよしは地域のコミュニティのきっかけになっていて」と感じたそうです。「インターネット環境がない人でも、町の情報が得られる広報みよし。思わず手に取って読みたくなります。今後も地域ならではの話題や切り口で、住民の声を聴きながら、魅力ある広報紙を届けてほしいと思います」



若年性認知症の今も健在のご主人と一緒に(3年前に撮影)。横原敬之さんの曲を聴くことがストレス発散に。

### 認知症をゆっくり考えてみませんか



### 認知症、じぶん事。

認知症について考えた特集。町内の認知症の家族を取材し、当事者が抱える悩み、認知症に気づいたタイミングなどを、身近な人が伝えている。上記のQRコードからWEBで、ご覧いただけます。



平成26年6月号

### 認知症 Cafe 熊谷くるみさん

3年前の2015年9月号の広報みよしの特集で認知症Cafeが掲載!そのきっかけは……。



認知症 Cafe 熊谷くるみさん